

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 篠井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	14人	算数	14人	理科	14人
第5学年	国語	19人	算数	19人	理科	19人

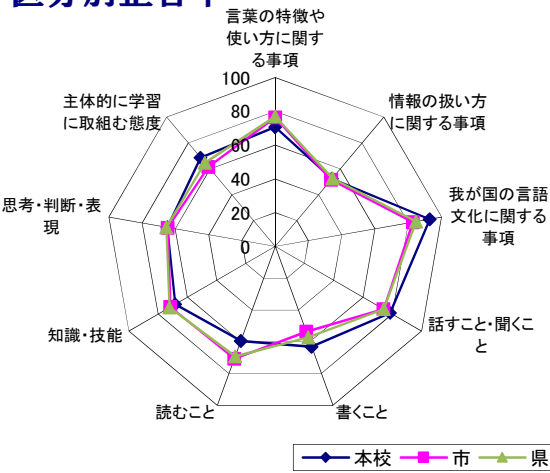
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	70.7	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	52.4	51.5	52.7
	我が国の言語文化にに関する事項	92.9	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	78.6	74.1	74.2
	書くこと	63.1	53.7	57.2
観点	読むこと	59.5	70.7	69.2
	知識・技能	68.4	71.6	72.3
	思考・判断・表現	64.8	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	68.6	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

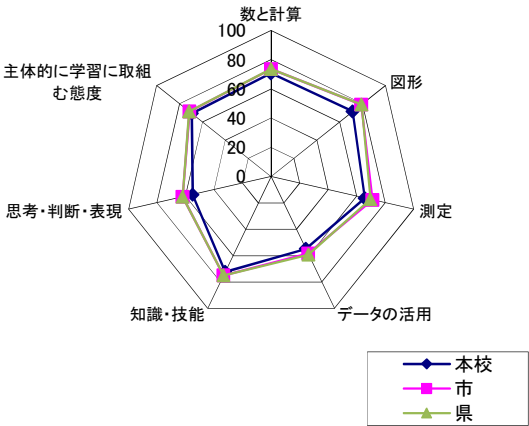
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	●平均正答率は70.7%で、県の正答率をやや下回った。 ●漢字の読み・書きの問題の正答率は、県の正答率を下回ったものが多かった。 ○主語と述語の理解に関する問題の正答率は、県の正答率をやや上回った。	・漢字について、訓読み、音読み、部首、書き順、熟語などについて一度に学習するノートの使い方など研究して全学年で取り入れるなど、学習方法の改善を図る。 ・AIDリルや「マスターカード(全校児童が取り組む復習問題シート)」を使い、学年の枠を越えて復習し、習得を図る。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は52.4%で、県の正答率とほぼ同じであった。 ○国語辞典の使い方にに関する問題の正答率は71.4%で、県の正答率とほぼ同じだった。 ○情報と情報との関係を理解し、出題の意図にあわせて論述する問題の正答率は、県の正答率とほぼ同じだった。	・国語辞典を含む図書資料やパソコンを利用したの調べ学習を発達の段階に応じて行う。 ・読み取った情報と情報の関係をとらえさせる学習を意図的に取り入れる。
我が国の言語文化にに関する事項	○平均正答率は92.9%で、県の正答率をやや上回った。 ○漢字のへんやつくりの理解に関する問題の正答率は92.9%で、県の正答率をやや上回った。	・部首だけでなく、漢字の創りや成り立ちについても折に触れ指導していく。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は78.6%で、県の正答率をやや上回った。 ○話し手の伝えたいことの中心を捉える問題の正答率は78.6%で、県の正答率とほぼ同じだった。 ○相手に伝わるように、自分の考えを理由を挙げながら論述する問題の正答率は78.6%で、県の正答率をやや上回った。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」は互いに深く関わり合うものであることから、次の取組により一体的に資質・能力を向上させる。 ・各学年の学習内容に応じて、ねらいを明確にして授業を行い、それぞれの知識及び技能を確実に習得させる。 ・各題材において、 文章全体の構成などについて筆者の意図を見出す 目的に応じて必要な情報を見つけ出す 問いの答えを文章中の言葉を使い要約する といった学習活動を取り入れ、適切にフィードバックする。
書くこと	○平均正答率は63.1%で、県の正答率をやや上回った。 ○集めた材料を分類して伝えることを明確にする問題の正答率は57.1%で、県の正答率を上回った。 ○6～8行で文章を論述する問題の正答率は71.4%で、県の正答率をやや上回った。	・「聞くこと」や「読むこと」で学んだことを生かして話したり書いたりする機会を設け、適切にフィードバックする。その際、児童同士の相互評価の機会も設ける。
読むこと	●平均正答率は59.5%で、県の正答率を下回った。 ●物語の読み取りに関する問題の正答率は57.1%、71.4%で、県の正答率を下回った。 ●説明文の読み取りに関する問題の正答率は57.1%で、県の正答率を下回った。	・国語科で学んだこれらの資質・能力を他教科等の学習で発揮させる「つながりのある授業」を実践する。 ・苦手意識がある児童に対しては、個別に指導、助言する。 ・読書量を増やす。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.7	73.5	73.6
	図形	71.4	79.0	79.1
	測定	65.7	71.1	69.8
	データの活用	54.8	58.4	59.2
観点	知識・技能	72.3	75.0	75.0
	思考・判断・表現	55.1	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	69.4	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

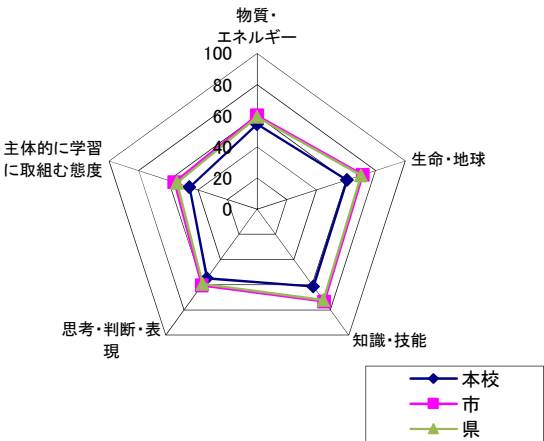
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は70.7%で、県の正答率とほぼ同じだった。 ○波及的繰り下がりのある引き算の正答率は92.9%で、県の正答率を大きく上回った。 ●小数に関わる問題の正答率は、県の正答率を下回ったものが多かった。 ●文章から式を立て、余りのある割り算により解答する問題の正答率は、県の正答率を下回った。	・小数の計算について、日常生活に関わる問題を解決することを通して、習得を図る。 ・文章から割り算の式を立てる学習を増やす。その際、誤った立式について、その理由を説明する学習などを取り入れる。 ・朝の学習の時間や全校生が取り組む学習シート(マスタープリント)を活用して、学年の枠を越えて計算について復習をさせ、定着を図る。
図形	●平均正答率は71.4%で、県の正答率をやや下回った。 ●円の半径の理解を尋ねる問題の正答率は64.3%で、県の正答率を下回った。 ●球の入った箱の辺の長さを求める問題の正答率は64.3%で、県の正答率をやや下回った。	・円や球の学習において、日常場面を問いとするなど工夫するとともに、具体物を測定するなど、分かりやすい活動を加える。 ・円などの平面図形については、作図する機会を充実させる。
測定	●平均正答率は65.7%で、県の正答率をやや下回った。 ○はかりの目盛りを読み取る問題の正答率は71.4%で、県の正答率を上回った。 ●k(キロ)が付くと、もとの単位の1,000倍になることを説明する問題の正答率は21.4%で、県の正答率を大きく下回った。	・基本的な作図を習得させ、定規やコンパスを使い、正確に描けるよう指導する。 ・単位の変換については、長さや重さ、かさについて具体物を用いて理解させるとともに、個別にも指導する。
データの活用	○平均正答率は54.8%で、県の正答率とほぼ同じだった。 ●棒グラフを読み取る問題の正答率は、県の正答率を下回るものが多かった。	・棒グラフを読み取る学習、作成する学習を充実させる。 ・棒グラフについて算数で学んだことを生かし、他教科等で「つながりのある授業」を行う。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	54.6	60.2	59.2
	生命・地球	60.7	71.3	70.3
観点	知識・技能	61.5	73.4	72.3
	思考・判断・表現	55.0	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	45.7	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は54.6%で、県の正答率とほぼ同じだった。 ○音の性質に関わる問題の正答率は、県の正答率をやや上回った。 ●光の性質に関わる問題の正答率は、県の正答率を下回った。 ●風やゴムのはたらき関わる問題の正答率は、県の正答率を下回った。 ●磁石の性質に関わる問題の正答率は、県の正答率をやや下回ったものが多かった。 ●問題の内容を問わず、実験結果を基に法則を見出すなど、考察すること、実験結果から予測されることを説明することに課題が見られる。	・観察、実験を実施し、その結果を考察させることを学習活動を充実させる。その際、仮説や予想を立てる活動を充実させる。 ・観察、実験などに関する基本的な知識や技能を身に付けさせるようにする。 ・光の性質、風やゴムのはたらき、磁石に関する学習の「問い」や活動を見直す。
生命・地球	●平均正答率は60.7%で、県の正答率を下回った。 ●虫メガネの使い方に関わる問題の正答率は、県の正答率を大きく下回った。 ●植物の育ち方に関わる問題の正答率は、県の正答率を下回ったものが多かった。 ●昆虫の育ち方や体のつくりに関わる問題の正答率は、県の正答率を下回ったものが多かった。	・身の回りの生物を探したり育てたりする中で、理科の見方・考え方を働かせて(それらの様子や周辺環境、成長の過程や体のつくりに着目して)、よく観察させ、知識の習得を図る。 ・観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにするため、生き物の観察をする際には、基本的な観察器具の使い方をしっかり指導する。 ・植物の育ち方、昆虫の育ち方や体のつくりに関する学習の「問い」や活動を見直す。

宇都宮市立篠井小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」「授業を集中して受けている」「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」という質問に肯定的に回答している児童の割合は100%であり、授業に意欲的に取り組んでいることが分かる。

○「家で、学校の宿題をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」「学校の宿題は、自分のためになっている」という質問に肯定的に回答している児童の割合はいずれも100%であり、家庭学習にしっかりと取り組んでいることが分かる。

○「学校のきまりを守っている」「だれに対しても、思いやりの心をもってせっている」「しょう来のゆめや目標をもっている」という質問に肯定的に回答している児童の割合は100%である。引き続き、児童の良さを生かしながら、「よりよい自分」を目指した学校生活を送れるよう、指導にあたっていきたい。

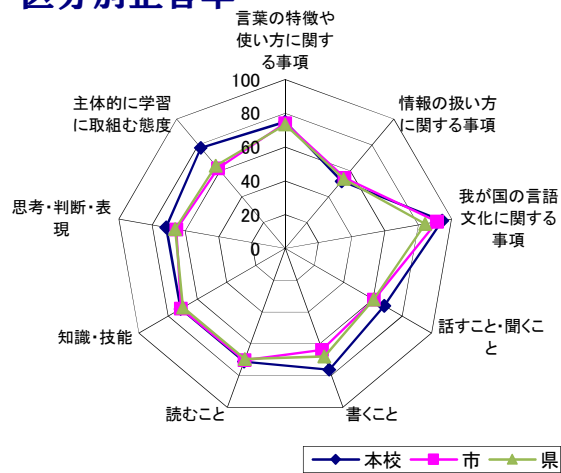
○「学校の授業時間以外に、ふだん、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」という質問に対して、「30分以上、1時間より少ない」と回答した割合が、市の平均を10ポイント以上上回っており、日頃から読書に親しむ児童が多いことが分かる。今後も、読書に親しませていきたい。

●「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか」「ふだん、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームを読みますか」という質問に対して、市の平均と比べて時間がやや長い傾向が見られる。家庭での時間の使い方について、子どもたちに計画を考えさせたり、学年だより等を通じて呼びかけたりするなど、保護者の協力を得られるように情報を共有していきたい。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.0	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	51.9	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	94.4	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	67.8	60.6	60.4
	書くこと	76.4	63.8	68.0
	読むこと	71.3	70.4	69.6
観点	知識・技能	71.4	71.3	69.9
	思考・判断・表現	71.5	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	77.8	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

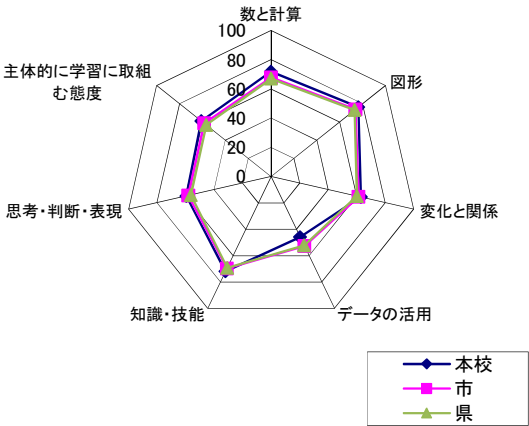
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○平均正答率は75.0%で、県の正答率とほぼ同じであった。 ○漢字の読み・書きの問題の正答率は、県の正答率とほぼ同じものが多かった。 ○修飾語に関する問題の正答率は、県の正答率を上回った。	・今後も、朝の学習や宿題等で、継続的に漢字の学習に取り組ませるとともに、漢字や熟語の意味や由来等を調べさせ、漢字や言葉に関心を持たせるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	○平均正答率は51.9%で、県の正答率とほぼ同じであった。 ○情報と情報との関係についてよく理解し、段落相互の関係を捉える問題の正答率は、県の正答率を上回った。 ●漢字辞典の使い方にに関する問題の正答率は、県の正答率を大きく下回った。	・漢字辞典や国語辞典を身近に置き、これらをすすんで活用させる。
我が国の言語文化にに関する事項	○平均正答率は94.4%で、県の正答率を上回った。 ○ことわざの意味を知り、正しく使う問題の正答率は94.4ポイントで、県の正答率を上回った。	・ことわざや故事成語などに触れる機会を日常的に設け、これらについて関心を高めるようにする。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は67.8%で、県の正答率をやや上回った。 ○司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考えをまとめる問題の正答率は88.9%で、県の正答率を大きく上回った。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」は互いに深く関わり合うものであることから、次の取組により一体的に資質・能力を向上させる。 ・各学年の学習内容に応じて、ねらいを明確にして授業を行い、それぞれの知識及び技能を確実に習得させる。 ・各題材において、 文章全体の構成などについて筆者の意図を見出す 目的に応じて必要な情報を見つけ出す 問いの答えを文章中の言葉を使い要約する など学習活動を取り入れ、適切にフィードバックする。 ・「聞くこと」や「読むこと」で学んだことを生かして話したり書いたりする機会を設け、適切にフィードバックする。その際、児童同士の相互評価の機会も設ける。 ・国語科で学んだこれらの資質・能力を他教科等の学習で発揮させ、話し合い活動を充実させるなど、「つながりのある授業」を実践する。 ・苦手意識がある児童に対しては、個別に指導し、認め励ます。 ・読書量を増やす。
書くこと	○平均正答率は76.4%で、県の正答率をやや上回った。 ○自分の考えと、それを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書く問題の正答率は、県の正答率を大きく上回ったものが多かった。 ●段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書く問題の正答率は、県の正答率を下回った。	
読むこと	○平均正答率は71.3%で、県の正答率とほぼ同じであった。 ○物語において登場人物の気持ちについて叙述を基に捉える問題の正答率は、県の正答率を上回ったものが多かった。 ●説明文において叙述を基に文章の内容を捉える問題の正答率は72.2%で、県の正答率をやや下回った。	

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.9	67.8	67.0
	図形	76.4	73.9	73.1
	変化と関係	63.0	61.4	60.2
	データの活用	45.8	52.7	52.1
観点	知識・技能	72.0	69.7	69.2
	思考・判断・表現	59.5	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	61.1	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

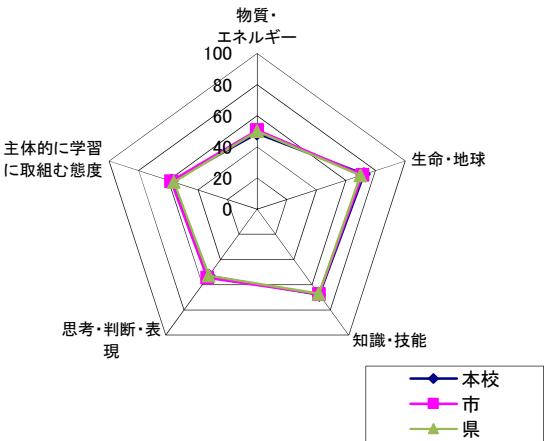
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は71.9%で、県の正答率をやや上回った。 ○四則の計算問題の正答率は、県の正答率を上回ったものが多かった。 ○数直線上に示された分数を読み取る問題の正答率は88.9%で、県の正答率を上回った。 ●数の大きさを比較する問題(整数と分数を比較する問題を含む)の正答率は、県の正答率を下回ったものが多かった。	・小数や分数を含む四則計算については、引き続き、朝の学習や家庭学習で十分に練習させる。 ・「数字や式で表す」「具体物で表す」「数直線上に表す」を一致させることができるように理解させる。
図形	○平均正答率は76.4%で、県の正答率とほぼ同じであった。 ○分度器で示された角の大きさの読み取る問題の正答率は94.4%で、県の正答率を上回った。 ○千円札のおおよその面積を求める問題の正答率は61.1%で、県の正答率を大きく上回った。 ○複合図形の求め方を式に表す問題の正答率は88.9%で、県の正答率をやや上回った。 ●180度より大きい角の大きさを求める問題の正答率は51.1%で、県の平均を下回った。 ●四角形の辺の長さの性質の理解を問う問題の正答率は50.0%で、県の平均を大きく下回った。	・今後も、作図する活動や測定する活動を十分に行う。 ・それぞれの図形を学習する学年・単元において、既習の測定法や公式などを活用しながら多様な求積法を見出させる授業に、十分な時間をかけて取り組む。その際、「角」「辺」「直角」「平行」などの言葉や図形の名称を理解させ、筋道を立てて説明できるように指導していく。 ・180度より大きい角や四角形の辺の長さの性質に関する学習の指導計画を見直す。
変化と関係	○平均正答率は63.0%で、県の正答率とほぼ同じであった。 ○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題の正答率は44.4%で、県の正答率をやや上回った。 ○数量の関係を、割合を使って説明する問題の正答率は72.2%で、県の正答率を上回った。	・実際の数で表すことと割合で表すことを比較する学習や、伴って変化する2つの数量について日常生活で親しんでいる事象から学ぶ学習など、引き続き工夫して習得させる。 ・習得したことを生かし、他教科で「つながりのある授業」を行う。
データの活用	●平均正答率は45.8%で、県の正答率をやや下回った。 ●折れ線グラフを読み取る問題の正答率は、県の正答率を下回ったものが多かった。 ●二次元表を読み取る問題の正答率は38.9%で、県の正答率をやや下回った。	・折れ線グラフや二次元表について読み取ったり作成したりする学習活動を通じて表現されていることの意味を理解できるようにする。 ・折れ線グラフや二次元表について算数で学んだことを生かし、他教科等で「つながりのある授業」を行う。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	48.5	50.8	50.0
	生命・地球	72.2	71.1	69.8
観点	知識・技能	68.1	67.6	67.2
	思考・判断・表現	53.0	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	57.8	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は48.5%で、県の正答率とほぼ同じであった。 ○予想が正しい場合に得られる実験結果を予測する問題の正答率は、県の正答率を上回ったものが多かった。 ○電池の直列つなぎと並列つなぎについて理解していることを活用して実験結果を推測する問題の正答率は72.2%で、県の正答率を大きく上回った。 ●物の体積と温度に関する問題の正答率は、県の正答率を下回ったものが多かった。 ●水のすがたに関する問題の正答率は、県の正答率をやや下回ったものが多かった。	・実験を通して基礎・基本となる知識を理解できるような授業を充実させる。その際、実験前に予想を立てることと実験後に、そのデータを基に考察する(実験から何が分かるのか)活動を十分な時間をとって行うことに留意する。 ・実験の予想や結果を考察するときには、基本的な語句を適切に使いながら説明できるように指導する。 ・「物の体積と温度」「水のすがた」に関する学習の「問い」や活動を見直す。
生命・地球	○平均正答率は72.2%で、県の正答率とほぼ同じであった。 ○オオカマキリの季節ごとの様子を尋ねる問題の正答率は83.3%で、県の正答率を大きく上回った。 ○方位磁針の使い方に関する問題の正答率は44.4%で、県の正答率をやや上回った。 ○雨水のゆくえや水たまりに関する問題の正答率は、県の正答率を上回ったものが多かった。 ●夏と秋・冬の動物の様子の違いに関する問題の正答率は66.7%で、県の正答率を下回った。 ●筋肉に関する問題の正答率は61.1%で、県の正答率をやや下回った。	・実験や観察を通して基礎・基本となる知識を理解できるような授業を充実させる。その際、実験や観察前に予想を立てることと実験後に、そのデータを基に考察する(実験から何が分かるのか)活動を十分な時間をとって行うことに留意する。 ・観察においては、第3学年から理科の見方・考え方を働かせるよう指導するとともに、観察記録には、見方・考え方を働かせた教師のコメントを必ずにする。 ・日常生活でも自然を観察するよう、動植物や天気、天体などに関心が高まるよう指導する。 ・実験の予想や結果の考察及び観察記録においては、基本的な語句を適切に使いながら説明できるように指導する。

宇都宮市立篠井小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」という質問に肯定的に回答している児童の割合が、県の平均を上回った。話し合いながら学ぶことや話し合うことで学びが深まることを実感し、対話的な学習に対して意欲的なことがうかがえる。今後も話し合いの質をあげる手だてを研究し、資質・能力の育成につなげたい。

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で学校の授業の復習をしている」という質問に肯定的に回答している児童の割合は県平均を上回った。家庭学習について自分で工夫しながらしっかり取り組んでいる児童が多いことが分かる。

○1か月あたりの読書量は県平均を上回った。読書に親しんでいる様子がうかがえる。

○「早寝早起きを心がけている」「毎日朝食を食べている」という質問に肯定的に回答している児童の割合は県平均を上回り、朝食については100%だった。望ましい生活習慣を意識して生活している児童が多いことが分かる。保護者の方が指導されていることがうかがえ、今後も協力して児童の健やかな成長を図っていききたい。

○「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「将来のゆめや目標をもっている」という質問に肯定的に回答している児童の割合は県平均をやや上回った。引き続き、児童それぞれのよさを生かしながら、「よりよい自分」を目指した学校生活を送れるよう、指導にあたっていきたい。

宇都宮市立篠井小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・だれもが「わかる」「できる」つながりのある授業の実践 ・一人一人が自信や探究の意欲をもって課題に取り組み、学びを深めるための指導の工夫 ・家庭学習の充実に向けた保護者との連携強化	○「宇都宮モデル」を意識した授業を実践し、特に基礎・基本の確かな定着を図る。 ・「考え、気づき、習得する」授業の実践。 ・「習得したことを活用する問い」の設定。 ・「探究の意欲を刺激する問い」の設定。 ・児童の学習の的確な評価と、指導の改善。 ・見通しを持たせ、振り返りを行う授業により、主体的に学習する態度の育成を図る。 ・他教科等、他学年の学習との関連を図った授業の実践。（←「つながり」のある授業） ・一人一台端末の効果的な活用。	・国語、算数、理科とも、領域によって正答率が県の平均を上回るものと下回るものがある。例えば、第5学年算数では、「数と計算」は県平均をやや上回ったものの、「データの活用」では、やや下回った。 ・国語、社会、算数、理科の学習について、「好きですか」の質問に肯定的回答をした児童の割合は、県の肯定的回答率とほぼ同じであった。総合的な学習の時間については、やや上回った。 ・「学習の対して自分から進んで学習している」や「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している」の問いに対する肯定回答率はいずれも県の肯定的回答率を上回っており、主体的・対話的な学びが行われていることがうかがえる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・国語、算数の学習を苦手と感じている児童が多い。 ・成績分布に2つのピークがあり、学力の個人差が大きい。 ・国語では、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のいずれにも課題があるが、特に「読むこと」に課題がある。 ・算数では、「数と計算」、「図形」、「データの活用」の領域に課題がある。 ・課題に対して自ら、主体的に取り組む児童の割合をさらに高める必要がある。特に、少し困難な課題に取り組む意欲を高めたい。	・だれもが「わかる」「できる」つながりのある授業の実践 ・一人一人が自信や探究の意欲をもって課題に取り組み、学びを深めるための指導の工夫 ・家庭学習の充実に向けた保護者との連携強化	○「宇都宮モデル」を意識した授業を実践し、特に基礎・基本の確かな定着を図る。 ・「考え、気づき、習得する」授業の実践。 ・「習得したことを活用する問い」の設定。 ↑ 他教科等、他学年の学習との関連を図った実践。（「つながり」のある授業） ・「探究の意欲を刺激する問い」の設定。 ↑ 育成したい資質・能力や働かせたい見方・考え方を適切に設定し、明確にして。 ・学び合いを効果的な設定。 ↑ 友人とつながりのある授業を行う。 ・児童の考えを生かし、つなぎ、思考を深める問い返しなど、教師のコーディネート ↑ 授業前に、児童の活動や発言を予測して ・まとめ、振り返りでの児童の「すっきり」の実現 ○児童の学習状況に対する的確に評価し、指導を改善する。 ○苦手な領域について年間指導計画を見直す。 ○見通しを持たせ、振り返りを行う授業により、「主体的に学習する態度」の育成を図る。 ↑ 見通しの段階で、解答例を例示するなどして 取組のハードルを下げるなどの工夫をして。 ↑ ねらいに即した振り返りを行う。 ↑ 振り返りを以後の学習に生かして。 ○一人一台端末を効果的に活用する。 ○習熟度学習、ティームティーチングなど、個人差への対応の推進。 ○学級懇談会や学年だより等を利用し、家庭学習の習慣づけと保護者による支援の重要性を伝える。 ・家庭学習強化週間の実施。 ・自主学習ノートの参考例の紹介。